

あしぎん香港レポート

2018年4月号

- 【調査レポート】香港の財政予算案・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 【トピックス】経済自由度指数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 【アセアンレポート】タイプラスワンについて・・・・・・・・・・・・4
- 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 【香港コラム】足場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

足利銀行香港駐在員事務所
SUITE 1601, 16/F, TOWER2, THE GATEWAY,
HARBOUR CITY, TSIM SHA TSUI, KOWLOON,
HONG KONG
TEL:+852-2251-9475
FAX:+852-2251-9476

本レポートの内容につきましては、弊行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談下さいますようお願い致します。

【調査レポート】

—香港の財政予算案—

1. はじめに

香港の2018年度(2018年4月～2019年3月)の財政予算案が発表されました。香港のこれまでの財政は順調に推移しており、2004年から2017年まで14年連続して、財政黒字を維持しています。また、黒字の積み重ねである財政備蓄は15兆円を超え、向こう2年弱の期間、仮に政府歳入が全く無い場合においても、香港財政を賄える余裕を蓄えています。

そこで本稿では、これからの香港がどのような点に主に取り組んでいくか、財政予算案から確認していきます。

2. 2018年度財政予算案(財政収支の概要)

まずは、財政予算案の内、財政収支の概要を確認していきます。(図表1)

図表1 財政収支の概要—年度予算推移(単位:億円)

	2016年度	2017年度	2018年度
政府総収入	69,762	71,078	84,630
収入内訳			
法人税	19,334	19,460	21,714
土地収入	9,380	14,140	16,940
印紙税	7,000	7,420	14,000
給与所得税	8,470	8,666	7,672
投資収入	2,898	2,772	5,572
その他	22,680	18,620	18,732
政府総支出	68,166	68,796	78,106
支出内訳			
教育	11,760	12,250	15,918
社会福祉	10,136	11,270	12,908
インフラ整備	12,012	12,474	11,984
保健	10,864	9,800	10,920
保安	6,104	6,622	7,462
環境・食品	3,066	3,262	3,738
経済	4,326	2,520	2,982
その他	9,898	10,598	12,194
財政黒字	1,596	2,282	6,524

出所:香港政府財政予算案より香港駐在員事務所にて作成

収入面では、不動産取引や株式売買にかかる印紙税の増加を見込んでいるほか、経済環境の良化による法人税の増加を見込み、また、民間住宅の供給拡大を図るため政府用地の払い下げを進め、前年度と比較し、全体で1兆3千億円超の収入増加を見込んでいます。

支出面においては、大規模インフラ案件(香港とマカオ等を結ぶ海上大橋や中国本土とつながる高速鉄道建設)が完成に近づき、インフラ整備の予算が削減され、代わり

に、本年度は教育および社会福祉、保健への配分が高められました。理由としては、昨今社会問題化している児童虐待への対策強化や高齢化対策としての社会福祉・保健の充実が挙げられます。全体的には、前年度に比べ1兆円弱の支出増を見込んでおり、積極財政の様相を示していますが、それでもなお多額の財政黒字を見込んでおり、安定的な財政運営の体制が維持される予算案と言えます。

3. 2018 年度財政予算案詳細

図表 2 主だった施策一覧

項目	内容
減税	子ども扶養に係る基礎控除額増加(1,400千円⇒1,680千円)
	給与所得税を75%減額(上限420千円)
	法人税を75%減額(上限420千円)
経済の多元化	中国・深セン市と共同で進めている科学技術園の設置に2,800億円確保
	応用研究開発支援のため、1,400億円を基金に注入
	旅行者向けIT発展基金への4,200億円の割り当て
生活環境向上	診療所施設の改善等、病院発展計画支援のため4兆2,000億円確保
	公共住宅を今後5年で約10万戸供給
	高齢者の医療受診支援のため、1人あたり14千円の医療券配布

出所: 香港政府財政予算案より香港駐在員事務所にて作成

次に、財政予算案の内、主だった施策を確認していきます。(図表 2)

【減税】安定的な財政運営の結果、個人・法人からの徴税が少なく済むようになっており、減税の範囲が拡大する傾向です。元々、先進諸外国に比べ低税率であるとされる香港ではありますが、更なる減税を実施することで、景気刺激や投資意欲向上につながることを期待されます。

【経済の多元化】香港が今後重点的に取り組んでいく分野として、①バイオテクノロジー②人工知能(AI)③スマートシティ④フィンテックを挙げています。香港は、7 百万人の人口であり、いかに少ない人的資源を持って経済振興を図るか、先進技術を多数有すると言われる中国・深セン市との共同事業等で模索していく段階にあると言えます。

【生活環境向上】高齢者の割合が高まるにつれ、医療の充実は喫緊の課題と言え、多くの予算を割り当てる方針となっています。また若年層においては、将来的な持ち家取得を諦めざるを得ない環境(居住用不動産の高騰)にあります。今後は、比較的安価に居住できる公共住宅の供給拡大が求められており、世論に即した対応策の一つであると言えます。

4. まとめ

今回の予算案では、香港のこれまでの財政備蓄をどのような分野に投資していくか、また、市民生活をどのようによりよいものにしていくかが示されました。しかしながら、香港大学が実施した世論調査によると、予算案に対する評価は 100 点満点で平均 48.2 点に留まり、過去 10 年の予算案評価の中で過去最低を記録しました。政府と市民双方の思惑の間にギャップが生じている状況とも言えます。市民の声をどのように反映させていくか、より良い香港を目指すためにどのように活動していくか、今後の政府の対応に引き続き注目していきます。

香港駐在員事務所では、当地ビジネスにおける様々なサポートを実施しておりますので、是非お気軽にお問い合わせ下さい。

【トピックス】

—経済自由度指数—

1. 経済自由度指数とは

経済自由度指数とは、「財産権の保護、汚職の少なさ、司法の有効性、政府支出、税負担、財政の健全性、ビジネスの自由度、労働の自由度、通貨の自由度、貿易の自由度、投資の自由度、金融の自由度」の12項目(1項目100点)の平均点で評価される指数です。本指数は、米ヘリテージ財団により毎年調査されており、世界186ヵ国を対象としています。2018年2月に発表された2018年版のランキングにおいて、香港は24年連続で1位を獲得しました。

2. 香港の評価

香港は全ての項目で高い点数を獲得し、総合評価では90.2点と、本ランキングでは不動の地位を築いております。世界平均が61.1点となっていることから、香港の評価が格段に高いことが分かります。米ヘリテージ財団は香港について、「金融・ビジネスハブとしての高い競争力と中国との強い結びつき」が高評価に繋がっていると分析しています。中国との強い結びつきについては、中国を除く世界の人民元取扱量の75%が香港に集中(2017年実績)していることから、その状況が窺い知れます。また香港は、ビジネスを円滑に進める上で必要な物流ハブとしての側面も持っており、航空貨物取扱量世界第1位(2016年)であることやコンテナ取扱量世界第5位(2017年)であること等の実績も、本ランキングで高評価を得ている要因の1つであると推測されます。

一方、日本に対する評価については、総合評価で72.3点となっています。世界平均を上回ってはいるものの、財政の健全性(49.3点)では特に低い評価となっています。米ヘリテージ財団の分析でも、「世界でも借金の多い国の一つ」とされており、そのことが評価を下げている要因の1つとなっていることが窺い知れます。

【香港の各項目の点数 ※()は日本の点数】

財産権の保護	92.5(86.0)	税負担	93.1(67.4)	通貨の自由度	84.3(85.4)
汚職の少なさ	82.8(79.2)	財政の健全性	100.0(49.3)	貿易の自由度	90.0(82.3)
司法の有効性	84.3(73.2)	ビジネスの自由度	96.3(81.7)	投資の自由度	90.0(70.0)
政府支出	90.2(54.1)	労働の自由度	89.4(79.2)	金融の自由度	90.0(60.0)

3. まとめ

香港は、地域統括本部の地として活用する企業が多く、本ランキングが24年連続で2位となったシンガポールとともに、今後もアジアのビジネスハブとしての注目を集め続けることが予想されます。

【アセアンレポート】

－タイプラスワンについて－

1. はじめに

2017年のジェトロの調査によると、タイには製造業者を中心に約5,500社の日系企業が進出しており、世界屈指の日系企業の産業集積地となっています。一方で、2013年頃より、タイに進出している企業のカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム(以下、CLMV諸国)への進出(タイプラスワン)が増えてきています。今回は、タイプラスワンについてレポートします。

2. CLMV諸国の経済規模

CLMV諸国の経済規模は以下のとおりです。経済規模ではタイに及ばないものの、成長率は年6%超と高く、4ヶ国合計の人口はタイの約2.5倍となっています。

【CLMV諸国の経済規模】

(ジェトロHPより)

国名	名目GDP (10億ドル)	1人あたり名目 GDP(ドル)	実質GDP 成長率(%)	人口 (万人)
カンボジア	19.4	1,230	7.02	1,506
ラオス	13.8	1,925	6.94	716
ミャンマー	66.3	1,269	6.30	5,148
ベトナム	205.2	2,215	6.20	9,270
CLMV諸国合計	304.7	—	6.61(※)	16,640
タイ	406.9	5,899	3.20	6,676

※実質GDP成長率は4ヶ国の平均を記載。

3. タイプラスワンの要因

タイプラスワンを実施する要因としては、安価な労働力の確保が挙げられます。CLMV諸国の人件費はタイの1/3～2/3となっており、労働集約的な産業を中心にタイからCLMV諸国への生産移管が行われています。また、今後の消費市場としての潜在性もCLMV諸国への進出要因のひとつです。CLMV諸国の1人あたりのGDPはまだまだ小さいものの、高い経済成長率と豊富な労働力人口により、消費市場としての魅力は今後ますます高まっていくでしょう。

4. まとめ

今年の3月、めぶきFGである常陽銀行がベトナム・ハノイに駐在員事務所を開設しました。当行では、バンコク駐在員事務所に加え、常陽銀行のベトナムおよびシンガポールの駐在員事務所を活用することで、アセアン地域における各種支援や情報提供に努めてまいります。

【ニュース一覧】

〈香港〉

- ・経済
 - －香港政府、EV買い替えに最高 340 万円の登録税減免(3/2)
 - －2017 年 10～12 月期の香港の成長率、3.4%(3/2)
 - －1 月の小売売上高、前年同期比 4.1%増に減速(3/5)
 - －2 月の日経・香港 PMI、51.7 に上昇(3/6)
- ・金融
 - －香港ドル、33 年ぶりに安値更新(3/12)
- ・不動産
 - －香港政府、2018 年度に約 3 万戸の住宅用地供給へ(3/5)
 - －2 月の民間住宅賃料、前年同月比 1.4%下落－下落は 23 ヶ月ぶり(3/15)
- ・その他
 - －香港人の月収中央値、前期比 1.2%増の約 24 万円(3/1)

〈広東省〉

- ・経済
 - －2 月の広東省製造業 PMI、51.8 に低下(3/2)
 - －深圳市、2017 年の GDP は香港に届かず－差は 1 兆円に縮まる(3/5)
 - －広東省、2017 年の対日輸出は前年比 7.6%増(3/5)
 - －2 月の広東省 CPI、前年同月比 3.3%上昇(3/13)
 - －広州市、高齢者向けビジネスの参入規制緩和(3/14)
 - －広東省、1～2 月の貿易総額前年同月比 17.4%増(3/15)
- ・その他
 - －深圳市、高度人材計画スタート－1 団体に最高 17 億円補助(3/1)
 - －広州市、2017 年末の定住人口約 1,450 万人(3/2)
 - －広東省、2017 年末の定住人口約 1 億 1,169 万人(3/5)
 - －深圳市、新築住宅価格 17 ヶ月連続で下落(3/5)
 - －広州市、2017 年の住宅価格上昇率で世界第 5 位(3/7)
 - －広東省、2020 年までに国家科学技術産業イノベーションセンター整備(3/13)
 - －広東省、前年より大気の質が低下、PM2.5 深刻な状況(3/15)
 - －深圳市、2 月の新築住宅成約件数前年同月比 71%減－2008 年以降で最低(3/15)

(出所:各種新聞報道等)

【香港コラム】

－足場－

香港の街中の建築工事現場では、ナイロンのひもで縛って組んでいる竹の足場をよく見かけます。日本の足場は、鉄製のものを組み立てて使いますが、なぜ香港は竹の足場を採用するのでしょうか？香港人にとっては当たり前の光景ですが、我々にとっては珍しい光景ですので本稿では竹の足場についてご紹介致します。

1. 低価格

一般的な竹の価格は、長さ22フィート(約6.7メートル)で一本18香港ドル(約240円 ※1香港ドル=13.5円にて計算)です。同じ長さの鋼管は120香港ドル(約1,600円)となっており、コスト面からも竹が選択されます。

2. 簡易な組立、解体

竹は軽量なこともあり、特別な工具も必要なく簡単に素早く組立と解体が出来ます。熟練工ですと、1日で600～700㎡を組立て、2,000㎡を解体することが可能です。一方、鉄製の足場ですと1日の組立が300～400㎡、解体が500～600㎡までしか出来ません。

3. 環境・気候

香港は土地が狭く、建物がひしめき合っています。鉄製と比べ竹は建物間の隙間が狭い場所でも足場を組むことが出来ます。

また、香港は湿度が高く、鉄製が錆びやすい環境です。台風が多い地域でもあるので、強風に耐えられることも必要です。竹は強度が強だけでなく、柔軟で軽量ですので、台風などの影響で万が一足場が崩れた場合でも、事故等による影響を抑えることができます。

鉄製に比べると、竹は時間とコストを抑えられます。また、壁から60cmの空間があれば足場を組み立てることが出来るため、土地が狭い香港では大きなメリットとなります。香港を訪れる機会があれば、少し視線を上げて見事に組み立てられた竹の足場を探してみてください。

